

## 事前アンケート結果

所属	振り返り	今後の課題・目標
市立図書館	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブックスタート事業について、境港市と比較されることが多く、本の冊数やかばんについての要望も多い。</li> <li>●ブックスタートでボランティアの読み聞かせを目の当たりにすることで保護者が読み聞かせをする際の「手本」となっている。</li> <li>●平日は乳幼児連れの親子が多く、夏休み等は調べ学習用の資料探し等で児童でにぎわっているが、中高生はほとんど姿をみない。高校生は大会議室で勉強をするために来館している。</li> <li>●移動図書館車では、放課後の時間になると親子連れ等が多く利用してくれる。</li> <li>●来館する子どもは顔なじみとなっているので、子ども全体の中での利用者はほんの一部かもしれない。</li> <li>●ヤングアダルトコーナーを設けたことで、ローティーンの利用者の動向に変化があった。各年齢に対応した書架を整備した効果があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●絵本から読み物への移行期について、何をを読んだら(読ませたら)良いのかわからないという声がある。</li> <li>●大人が本を読まなくなっているが、テレビやインターネット等の「別の手段」で代替されている部分がある。また「本」といっても様々な分野があるので、「読み物」を読むことだけを読書としなくてもよいのではないか。「本を読む」ということ自体に変化があり、それぞれに良さもある。</li> <li>●「活字離れ」という表現をすることでかえって敷居が高くなるという話を聞いた。一時的には本から離れる次期があってもよいのでは。</li> <li>●保育の場、ボランティア等の連携・情報共有がされていない。読み聞かせに熱心な園もあれもそうでない園もある。乳幼児期に「空白」ができることで小学校に上がってしまう。共同での学習会等を開催してはどうか？</li> <li>●読み聞かせをする側の選書にも偏りなどがあると聞く。子どもが喜ぶ本ばかりではいけない。</li> </ul>
児童文化センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>●この5年間で学校図書の充実もあり、センターの利用年齢層が低年齢化した。その結果、乳幼児及びその保護者がサービスのメイン層となり、育児書や乳児向けの絵本が貸出の上位となり始めた。(以前は小学生向けの読物が上位だった)そのため、蔵書構成も変更している。</li> <li>●読み聞かせボランティアの養成講座を実施している。ただ絵本を読むというだけでなく、選書や個人情報の取扱い等の基本的な部分に重要視している。その後学校等ので活動している方もいるが、活動状況の把握までは行えていない。</li> <li>●絵本とわらべうた等の事業を継続し、また図書だよりを発行し、ブックスタートの延長線となるような図書の紹介等を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校図書館だけでなく、保育園や児童館、なかよし学級等といった各施設の職員に、それぞれの年齢層に応じた研修の必要性を感じる。しかし、センターのスタッフ(有資格者3名)だけでは対応しきれない。</li> <li>●団体貸出で施設等を支援することもできるが、センターの蔵書数では対応には限界があり、市立図書館等との緊密な連携が必要。</li> <li>●ブックスタートの定着により、これから小学校へ行く世代には、保護者も含め、ある程度読書が定着している感じがある。</li> <li>●ボランティアとして活動して下さる方々のおかげでセンターとしても運営ができています。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●0.1歳児 絵本を通してふれあいの時間が持てる。</li> <li>●1.2歳児 友達と一緒に読んだり、1冊の本を1ヶ月間繰り返し読み聞かせたりしている。繰り返し読み聞かせることの大切さを感じている。家庭にも持ち帰り繰り返し読んでいよう、成果を感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●絵本の貸出しをしているが、借りる子と借りない子がはっきり別れる。保護者に働きかけることが大切。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝読を継続することがよい。</li> <li>●保育園は月50冊の本を図書館から借りているが、距離があるので可能な範囲で利用を促進したい。</li> <li>●ブックスタートで絵本に関心のない保護者にもよいきっかけを与えているのでは。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●関心のある人はよいが、そうでない人もいるので、魅力的な図書館づくり等の工夫が必要。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎日読み聞かせを行っているが、興味をもてず集中できない子がいる。家庭での取り組みも促すがうまくいかない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭での取り組みをもっと啓発する必要がある。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●親世代に読み聞かせ体験が乏しく、貸出した本をそのまま返却することが多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者に絵本や童話の楽しさを知ってもらう機会を増やす必要がある。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者の不安を減らす効果があった。</li> <li>●保育園と支援センターとのつながりを直接伝えていけたらよいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育園等にいる子は図書の環境は良いと思う。</li> <li>●活字離れを減らす為にも図書の紹介を。</li> </ul>

所属	振り返り	今後の課題・目標
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4.5歳児 日々の活動では読む機会を多くしている。5歳児は物語だけではなく、数や体のしくみ等を学べる機会になるように1ページごと丁寧に活用している。家庭にも持ち帰り成果を活かせればと思う。</li> <li>●2.3歳児 絵本の読み聞かせを楽しみにしており、イメージを膨らませたり、言葉の面白さを感じたりしている。本を読んでもらいスキンシップを楽しんでいる。</li> <li>●1歳児 毎日の絵本タイムを楽しみにしている。身近なものを取り上げたものや繰り返しの内容を好む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎週1回絵本の貸出しを行っている。家庭では読み聞かせしてもらえず園に持ってくる子もいる。いかに絵本を通じて親子のふれあいの時間をつくるかが今後の課題である。</li> <li>●発達にあった絵本選びをしたい。</li> <li>●これからも園での活動を継続したい。</li> <li>●家庭によっては絵本が与えられないこともあるので、ブックスタート事業はこれからも大切にしたい。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日々の活動として月間絵本を1ヶ月間繰り返し読むことを続けている。</li> <li>●1.2歳児 同じ絵本を読み続けることで内容を覚え、遊びの中でもその言葉を使ったり、同じイメージと大人との会話も楽しめる。</li> <li>●0歳児 ひざの上で抱っこして読んでもらう経験を重ねていけば本を破ることも少なくなり、友達と一緒に読めるようになる。絵本を通じて大人と共感しあえることが大切。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今はあまり読み聞かせの時間を持っていないし、絵本の種類も少ない。もっと多くの時間、量のなかで子どもに絵本の機会を提供したい。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●絵本に興味の持てない子は、絵本の面白さに出会うきっかけがなかった子なので、園でも取組みを行い、家庭での読み聞かせ等の紹介もしてきた。</li> <li>●落ち着きのない子などに対してどうしたらよいのかという保護者の方にもそういう感動を共有してもらえよう糸口にしたいと思っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●園では絵本についての研究を実施。選書や読み聞かせの技術だけではなく、家族や地域と一緒に取り組んでいる。毎月の読み聞かせには中学校区の保育園の先生達も見学にくるので、交流の場となっている。年に2回保護者による読み聞かせも実施。おじいちゃんおばあちゃんも見学に来るなどよい雰囲気であった。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中学校区での活動の中で絵本と子どものつながりの大切さを感じる。園でも月に1回「親子読み聞かせ」を実施。保育士(担任・家庭支援担当)や保護者、地域の方など人それぞれの読み聞かせを聞くことで、子どもたちもまた絵本を読んで聞かせたりと普段の遊びの中で絵本を楽しんでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中学校区4園での活動として年齢別での絵本の取組みを行っている中で、自分の選書に偏りがあることに気づいた。子どもの姿に合わせた選書に心がけるようになった。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●絵本を読むことの意味は言葉を教えることだけでなく読み手である親のぬくもりを伝えることだと保護者に伝えてきた。毎月の読み聞かせ会、保護者と一緒に本を選ぶ貸出など。その中で「保護者による読み聞かせ会」という声があり、年に2回実施。自発的に参加してくれる方は少ないが、声をかけると快く引き受けてくれるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者に対して絵本の力を伝える。多くの保護者に参加してもらうため参観日等の日程の見直しも。親子で本を選ぶことなどの主旨を伝える。絵本の取り扱い</li> <li>●職員</li> <li>●読書活動への共通理解</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動の節目に読み聞かせを行った。始めは落ち着いて聞くことができなかった子も変わってきた。読み方の工夫で子どもたちへの浸透の度合いが違う。</li> <li>●家庭への貸出しを行っているが、落書きや読まれずに返却される等、家庭に向けての取組みが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保育士の選書及び読み聞かせに対する狙い等の認識。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎週絵本の貸出しを実施。借りて帰った絵本を保護者に読んでもらい親子の温もりを感じながら、ふれあいの一端にして欲しいと思い取り組んでいるが、保護者の方がその意図をどの程度汲んで実践してくれているかは十分に把握できてない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●園の中では、保育士による読み聞かせや子ども達自身も本棚から興味のある本を手にとって見るなど絵本への興味は深まってきている。しかし、絵本が破られてしまうなど「消耗品」としての補充が十分でない。</li> <li>●絵本の冊数を増やす手立てが必要。</li> </ul>

所属	振り返り	今後の課題・目標
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●園で実施している「1ヶ月読み」を開始してから子どもたちも集中力がつき、絵本の中の小さな発見をするようになった。また繰り返し言葉を楽しみ保護者とも共有できるようになった。</li> <li>●子どもたちの方からもっと読んでといわれ、読み聞かせをする冊数も増えてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今後も1ヶ月読みを継続し家庭でも楽しんでもらえるようにしたい。</li> <li>●子どもの好きな絵本をもっと紹介していきたい。</li> <li>●できるだけ少人数での読み聞かせを増やしてふれあいや共感を増やしていきたい。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「1ヶ月読み」「集団読み聞かせ」「遊びの時間」「絵本コーナー」の取り組みを実施している。</li> <li>●集団の場合は補助の保育士がつくことでフォローができ、子どもたちも落ち着いてくる。</li> <li>●1対1の読み聞かせを大切にしている。</li> <li>●様々な状況(食事、遊び、睡眠等の時間)でその状況にあった内容のものを読み聞かせている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1対1の時間をつくる。</li> <li>●季節や行事にあった内容のものを選らぶ。</li> <li>●集団の際は、子どもたちが落ち着けるようにサポートする。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「1ヶ月読み」を継続することで、興味を示さなかった子も興味を持つようになった。その本を家に持ち帰ると、子どもが自身で読むようになり保護者も驚いて関心を持つようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●十分に時間が取れていない。</li> <li>●読み聞かせノートなどで園と保護者の情報共有をしたい。</li> <li>●絵本の貸出しを通じて保護者にも関心をもってもらいたい。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1ヶ月読みでは子どもが飽きるのでは？と不安もあったが、むしろ成果があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●月齢の小さい子は特に1対1の取り組みをしたい。</li> <li>●保護者にも同様の取り組みを伝えながら、親子の時間を作ってもらいたい。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●同じ本を繰り返し読むことで子どもたちも口ずさんだりするようになった。</li> <li>●1対1の取り組みで絵本が身近になったようだ。それぞれの好みに対応もでき、子どもたちもリラックスするようだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1ヶ月読みの継続</li> <li>●1対1の読み聞かせ</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●低年齢の子には1対1などの対応で、大人との時間をいい時間を作ることができるようだ。</li> <li>●年齢が高い子は、人の話をよく聞くなどにつながっているようだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1ヶ月読みの継続</li> <li>●子どもたちの好きな絵本選び</li> <li>●子どもたちを飽きさせない環境づくり</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小さいころから習慣化されていると、子ども自身も絵本を楽しめるようになった。</li> <li>●1ヶ月読みの取り組みがコミュニケーションツールとして機能している。</li> <li>●保育室内でゆったりと楽しんでもらえるコーナーをつくり、子どもたちも楽しんでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●乳幼児では保護者が読みかせや選書を行うためもっと興味を持ってもらえるように働きかけたい。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日々1対1の読み聞かせを行い、入園時は落ち着きのない子ども段々なれていった。</li> <li>●未満児、3歳児クラスは週に1回保護者と一緒に絵本を選び貸し出しを行っているが、読んでもらえないこともあり、家庭への働きかけに工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども自身の心にゆとりがないと難しいと感じるので、家庭への支援、働きかけが必要。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎日1冊は読み聞かせを行っている。季節等様々な工夫で選書をしているが、時には子どもの集中力が途中で切れてしまうこともあり、読み手のスキルなども必要と感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●絵本を通じたコミュニケーションというものをいかに家庭に伝えていくかが課題。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日々の読み聞かせの中で、子どもたちと気持ちが通じ合ったときは、喜びを感じるが、1対1での読み聞かせを行う余裕がなかなか取れない。</li> <li>●自分で進んで絵本を手にとる子もいるが、ゲーム的な本ばかりを選ぶ子もいて、家庭への啓発も必要だと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1対1での読み聞かせが理想だが、少人数による読み聞かせの時間を増やし、絵本の面白さを伝えていきたい。</li> <li>●「ゲーム的なもの」ではなくて月に何回は「物語」の貸出しを行い、保護者で楽しんでもらいたい。</li> </ul>

所属	振り返り	今後の課題・目標
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動への導入や言葉だけではイメージし辛い点等に絵本を使って、コミュニケーションを図っている。少人数での読み聞かせを行い、興味のある子は楽しんでる。</li> <li>●週に1回の貸出を積極的に利用する保護者と全く利用しない保護者があり、家庭への啓発が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭内でのゲームなどではない、絵本を通じた関わり等の啓発活動を行っていく必要がある。</li> <li>●保育士の選書のスキルアップが必要。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎日必ず1冊は読み聞かせを行っている。興味のある子ない子はいるが、工夫をしていきたい。</li> <li>●絵本を大切に扱えない子がいる。</li> <li>●週に1回絵本の貸出を行っているが、家庭で読まれないこともあるようで、家庭への働きかけが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●様々なメディアがあり、受身には慣れているが、自らの想像力というような点は弱まっているように感じる。発達段階にあった、選書を行い「基本図書」とできれば。</li> <li>●保護者の影響は大きいですが、保護者も本を読む人と読まない人の差が大きい。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども達は、絵本やお話は好きである。</li> <li>●行政ではブックスタートが始まったが、家庭で絵本を読んでもらう機会は少ない。</li> <li>●保育園という集団の中とは違って、1対1で読んでもらうことを必要としている子ども達がとても多いと現場では感じている。しかし、できない現状である。</li> <li>●絵本を大切にする気持ちが育っていない。保育士、親、大人がきちんと普段から対応していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●絵本を大切に扱い、絵本が大好きな子どもに育てていきたい。</li> <li>●絵本を読んでもらうことがすき、そのお話が大好きでイメージを膨らませたり、想像して遊ぶ楽しさ等、遊びを広げていく工夫をしていく。</li> <li>●絵本が大好きな子ども達は、自分で本を読もうとするようになって行き、イメージを広げていくことはいずれ学習にもつながっていくと思う。</li> <li>●絵本の貸し出しの意義を話し合い、やり方を考えていく。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブックスタート事業は、実際に健診現場に参加してみて、とても意義のある活動だと感じています。</li> <li>乳幼児期に、よい絵本にたくさん出会える環境を整えることは、親子関係あるいは集団での保育のみならず、児童期以降の読書活動においても、とても重要であると考えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「だっこで絵本事業」の継続と乳幼児期の絵本をとりまく環境の充実。</li> <li>●保育園・幼稚園への絵本等に関する物的・財政的援助</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●絵本を保育の中心に据えた取組みを行うことで、子どもが着実に絵本を好きになり、話を聞く態度も良くなっていると感じた。</li> <li>●絵本を乳幼児と身近な大人との仲立ちとして活用することが有用。</li> <li>●絵本への関心が一部の保護者に留まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本ビジョンを繰り返し発信して欲しい。</li> <li>●ブックスタートの継続</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●絵本の貸出をしているが、「子どもが自分で読む」という声が多く、また「読まないでそのまま返す」ということも耳にする。</li> <li>保護者に絵本への関心が低く、絵本の楽しさを知らないことが伺える。働きかけは行っているが、効果が見られない。今後も継続して働きかけを行い、保護者に実際に体験してもらうことも必要。</li> <li>●時間つなぎではなくて、絵本をしっかりと読み聞かせするように工夫をして取り組んできた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●保護者に絵本の大切さを伝える。</li> <li>●保護者と一緒に活動をすることで、保護者が楽しいと感じる経験を増やす。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●週1回の絵本貸出。月1回の親子貸出の実施。</li> <li>親子貸出では、一緒になって本を選んでる保護者もいるが、関心のない保護者もいる。</li> <li>●月1回の読み聞かせ会の実施。夕方の忙しい時間帯ではあるが、多数参加。保護者や園児の兄姉(小学生)による読み聞かせを行い、交流の場となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●絵本を貸出の際に、季節にあった絵本などによる選書や落書き乱丁等の確認が必要。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日々読み聞かせを実施。</li> <li>●貸出しを実施し、家庭への絵本の提供を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもや家庭に絵本の大切さを啓発するために読み聞かせの取り組みを継続したい。</li> </ul>

所属	振り返り	今後の課題・目標
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●月1回児童館で読み聞かせを実施(子どもと保護者対象)保護者が主となって行うので、年度によって内容は様々。保育士がサポートをして活動している。保護者が段々主体的になってきた。</li> <li>●毎週貸出しを実施、本の取り扱い方も伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●年齢が上がると「自分で読めるでしょ」と親が読んでくれなくなるようなので、工夫が必要(啓発誌の発行を計画中)</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●意識はしているが、絵本選びに自分の好みが反映されてしまう。</li> <li>●家庭への絵本の貸出しを行っているが、保護者がどう思っているのかわからない。もっと働きかけが必要か。</li> <li>●出席番号順に子ども1人1人に好きな本を選んでもらい読むようにしている。自分の順番がくるのを楽しみにしている。今後も続けてゆきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●発達段階に併せた基本的な推薦図書の一覧のようなものが欲しい。</li> <li>●絵本を遊びに中にとりいれていく。</li> <li>●園で保護者の読み聞かせを行う(現在、誕生会で実施)</li> <li>●保護者と一緒に絵本の大切さを理解、実践していく場。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブックスタートにも参加しているが、子どもの数が多く、ボランティアが大変。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブックスタートは健診の後に実施するので、保護者がとても疲れているように見える。よいチャンスであると思うが、工夫が必要では？</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各年齢に応じた読み聞かせを1日4～6冊程度起こっている。子どもたちはそれにより様々な表現活動に発展させている。子どもたちにとって知識や意識として定着してきている。</li> <li>●よい絵本の情報を得て、職員間で伝え合いながら、引き出しを増やす努力をしている。</li> <li>●毎年図書を購入し、貸出し等を行っているが、家庭によっては読まずに返却されることもあり、温度差を感じる。</li> <li>●保護者の方から逆に教えられることもある。</li> <li>●予算が欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●機会を捉え、繰り返し読み語りの重要性を訴えていきたい。</li> <li>●子どもの変化に気づいてもらえるような働きかけも今の保護者には必要。</li> <li>●子ども一人ひとりが興味を示した本などを具体的に保護者に提示していきたい。キャラクター物のような話が多すぎる。</li> <li>●保護者向けの研修会を企画してみたい。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブックスタートの取り組みは、幼いころから絵本に親しむ良い機会となっていると思う。アニメのキャラクターが登場する絵本も魅力はあるが、6ヶ月検診で、たくさんのいい絵本を読み聞かせてもらうことで、絵本のあたたかさ、言葉の繰り返しの楽しさなど親子で感じてもらえると思う。児童文化センターや、図書館の利用、絵本の読み聞かせのお誘いも前向きに考えておられたり、実際に利用されている方も多と感じた。自分自身、事前にパンフレット等じっくり読み込みそれ以上の情報提供できたらよかったと反省している。</li> <li>●はじめての赤ちゃんにめぐまれたお家の方は新鮮な気持ちでブックスタートのおはなしを聞き、絵本もたくさん読んであげよう、テレビやビデオを見せないで、と思ってくださったと思います。2人目からの方は、良いことは分かっている、という方や続けていく決意を新たにしている方もいるようでした。保育園の保護者の方も園の絵本貸し出しを通して絵本の大切さを感じている方が多くなりました。</li> <li>●△△中学校区では保小中連携のもと、年2回「テレビ・ビデオ・ゲームスリム化大作戦」として親子、家族で1週間「めあて」を決め、評価・反省をしてという取り組みが数年続いています。生活習慣の見直しにもなっています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブックスタートの取り組みは続けていくと共に、絵本から物語への移行の頃、またビデオやテレビ、ゲームとの付き合い方も知らせていくことができると思います。</li> <li>●全ての絵本を読み込んでいなければ、読み聞かせのポイントや子どもの反応を見るタイミングも分かりません。また、絵本に関する知識がないとお話できないので、たくさんの保育士がブックスタートに参加して勉強すべきと思いました。</li> <li>●絵本を読んであげるその人が絵本を最も楽しんでいることが一番の基本であると思っています。</li> </ul>
保育園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●絵本の扱いが”おもちゃの1つ”となっていた。</li> <li>●子どもたちに相応しい読み聞かせができなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●絵本の役割等について改めて考える。</li> <li>●読み聞かせをする側が本の内容を事前にチェックするなどの努力が必要</li> </ul>
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「朝の読書」「ブックスタート」を継続して取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●先生、父母が選んだ推薦図書の配布</li> <li>●推薦図書リストの配布</li> <li>●ボランティアの為に研修会の充実</li> </ul>

所属	振り返り	今後の課題・目標
幼稚園	●年長児を対象に図書の貸出や親子での貸出などを行っているが、絵本の読み聞かせを通じて地域との交流を深めていけるような機会が少ない。	●ボランティアに働きかける等して積極的に地域の方との交流を深めながら本に親しんでいけるような機会を作りたい。
幼稚園	●行事や季節に応じた絵本を取り上げたりして関心意欲の向上に努めてきた。その結果本への関心も高まったと感じる。 ●子どもたちは図書室が大好きで、自ら絵本を選んだり、落ち着いて読書活動を行っている。	●本を大切に扱うことを伝えていきたい。
幼稚園	●同じ絵本を何回も繰り返し読むということが少なくなったと感じる。2度目は、「もう読んだ」とか「他のがいい」という声上がる。	●保育の中で読む絵本が、昔話のように引き継がれている話ではなく、新しい絵本を読んでしまいがちになるので、幅広い選書に心がけたい。
幼稚園	●朝の集まりで年齢にあった内容や季節・行事に沿った内容の本を選んで読み聞かせをしている。入園当初は集中して聞けない子どももいるが、内容を理解し楽しんで聞き入るようになった。	●読み聞かせを実施できない日があるので、機会を増やしたい。途中で興味が逸れたり、注意が欠ける子もいるので、読み手の事前学習や読み方の工夫も必要。
幼稚園	●毎日降園前には1～2冊の絵本を読むようにしている。自分の読みやすいものに偏らないように心がけ、いろいろな分野の絵本を読むようにしている。 ●年齢によっては読み終わるのに数日かかるものもあるが、長編のものを避けてしまう傾向にあるので、気をつけたい。	●園の取り組みとして保護者への啓発。年齢にあった絵本の紹介や、気をつけることなど。選書しやすい環境づくり、年齢別の図書リストの作成。
幼稚園	●2歳児を担当しているが、言葉を覚えることや”絵を読む”ことの子どもの成長にとって非常に有用。同じ本を何度も繰り返し読むようにしている。	●年齢にあった読書リストを作成し、必読書をつくる。 ●教師も読書を習慣をつける。 ●映像文化が発展している中で、子どもからイメージを膨らませることを伝える。 ●保護者への啓発。
幼稚園	●ノーテレビデーの実施(月2回) ●年長児に対し、週末の絵本貸出の実施 ●希望者への絵本の配布(有料) ●ボランティア等によるストーリーテリング ●毎日の絵本、紙芝居の読み聞かせ ●図書の充実、保護者への啓発。 ●ノーテレビデーは手ごたえがある。 ●保護者の絵本離れを感じる。	●教師一人一人の更なる努力。(現在は、食育や表現活動へと発展) ●子どもを通じ保護者の絵本離れを食い止める。
幼稚園	●日々の生活の中に絵本を取り入れ、習慣化する ●年齢に応じた選書をし、子どもの関心を高める ●遊びの中に取り入れ、ごっこ遊び等につながる絵本選び ●読み聞かせを行う教師自体が絵本を楽しむ ●絵本を大切に扱う ●絵本を通じ、文字への関心や想像や考える力を養う。 ●年間を通して読み聞かせたい絵本選びを行う。	●年齢に応じた目標を設定することで、子どもたちの育てていきたい部分を園全体で考える。 ●読み手の好みや新しいものばかりでなく、昔話なども取り入れる。
幼稚園	●毎日読み聞かせを行おうと思っているが、なかなかできていない。 ●絵本の有用性は理解しているが、自分自身がもっと勉強する必要がある。 ●クラスの本棚がいつも同じ本ばかりなので、入れ替えが必要。	●選書や読み聞かせのスキルアップ
幼稚園	●降園前に時間を作り、季節等に応じた絵本を読んだり、活動の導入として絵本を活用している。 ●年長クラスには、絵本の貸出も行っている。	●いろいろな絵本を選ぶようにしているが、子どもの頃に読んでもらい大人になっても印象に残るような絵本を選ぶんでいきたい。 ●絵本の貸出を行っているが、家庭での状況がわからない。家庭との意見交換が必要。

所属	振り返り	今後の課題・目標
幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブックスタート事業はよい。(他市に比較すれば本の冊数が少ないが)</li> <li>●「図書館だより」も欠かさず見ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『子どもの読書活動』がどんなものかもっとPRが必要では？</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●研修会で他校の先生達と情報交換ができたのがよかった。具体的な実践資料ももらえ有意義だった。</li> <li>●図書予算が増え、本が充実してきた。</li> <li>●本好きの子も増えているが、個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人員が配置され、充実してきているが、司書教諭として5時間の時間が確保されていても全クラスには入れない。</li> <li>●読書や図書利用の学級差、個人差を少なくするための支援をしていく必要がある。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝読書が充実してきました。朝読書の時間になると、自主的に本を開いて読み進めるといよいよ習慣がつかえました。毎日10分間の積み重ねは、基礎学力の定着や豊かな感性・心情を育むことにつながり、子ども達にとって大きな力になっています。</li> <li>●朝読書の時間を使い、定期的に読書ボランティアの方に読み聞かせをしていただいています。地域の方々によるすてきな本との出会いを通して、「本を読んでみたい。」「本を好きになった。」という気持ちが、子ども達の心に広がってきました。</li> <li>●学校図書館のネットワークの充実には、大変感謝しています。学習に必要な本を自校だけでは、すべてをそろえることができないのが現状であり、この米子市のネットワークを利用すれば、市立図書館、各小中学校から借用でき、学習も充実してきました。また、市立図書館から学期ごとにたくさんの本を借用でき、子ども達が、朝読書等の時間を充実させています。</li> <li>●学習情報センター・読書センターとしての図書館の環境が整ってきました。学校図書職員・司書教諭を中心に活動するだけでなく、各担任も図書館の重要性を理解し、子ども達と本をつなぐ一役を担っています。職員の意識の変化は、子ども達の意識の変化につながっています。</li> <li>●この5年間、子ども達が本を借りる冊数は、毎年増えており、去年は一人あたり平均102冊になりました。低学年のうちから、しっかり読書をする習慣をつけことが大切であることを実感しました。よりよい読書習慣が定着してきたように感じています。</li> <li>●図書館教育に関する研修会や連絡協議会などがとても充実しています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子ども達が、テレビを見たりゲームをしたりする時間の比重が高くなる傾向にある中、家族で読書の機会を増やしていく試みが増えていけばよいと思います。自分を高める読書・家族の関係を考え、深める「家読」が広がればよいなと感じています。</li> <li>●小学校低・中学年から高学年、中学、高校、大人へと読書の機会をつないでいくよりよい方法を考え、取り組んでいくとよいのでは…と思います。</li> <li>●さらなる蔵書数の増加を切望します。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝読書が定着した。以前は学級によってあるいは児童によって取り組み方に差があったが、今は「朝の10分間は静かに本と向き合う時間」という認識が学校全体に浸透しているように思う。職員による読み聞かせを取り入れ、児童の読書への関心を高めるようにした。</li> <li>●市立図書館の全学級への本の貸し出があるため、常に教室に本がある。朝読書にも利用することができ、有効だった。「自分の好みの本がない。」と言ってあまり手に取らない児童もいたので、教員の働きかけがもっと必要だと思った。</li> <li>●学習でたくさん本が必要な場合に他の小中学校から一斉に借りることができるので、便利だった。教科によっては本が必要な時期が重なるので、学校図書職員が先を見越して動き、学習をスムーズに進める事ができた。</li> <li>●本の貸出冊数が増えている。学校図書職員と連携しながら委員会活動でいろいろな取り組みを行った成果だと思う。本をたくさん借りる児童とそうでない児童の差が大きいので、借りない児童への対応が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●児童の読書の幅を広げる。「歴史ものしか借りない」など、偏っている児童もいるので、様々な分野の本に触れる機会を作る。</li> <li>●児童の読書の質の向上を目指す。学年に合った内容の本を薦める。(国語の「読書の窓」の活用)新しい本だけでなく、読み継がれている本なども。</li> <li>●本を借りない児童の読書への関心を高める工夫をする。</li> </ul>

所属	振り返り	今後の課題・目標
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校図書職員が配置されて以降、図書館の環境が改善し、子ども達の読書環境が充実した。</li> <li>●朝読が定着し、自分の好きな本を選んで静かに読む姿が多く見られた。</li> <li>●相互貸し出しで多くの資料が借りられるようになり便利になった。</li> <li>●週1時間の図書館利用の時間を活用して、利用指導や読み聞かせ、ブックトークなどを行うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝読以外に本を読む機会が少ない児童への手立てや家庭での「家読」などの取り組みが必要。</li> <li>●司書教諭の活動時間が週5時間、学校図書職員の勤務が週28時間。改善が必要では。</li> <li>●図書館を活用した学習を全学級で系統的に取り組んでいくためには、選任の司書教諭の制度が必要。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「朝の読書」は、日常生活時間の中に定着し、当然のこととして児童も職員も取り組んでいる。この時間に委員会の児童による読み聞かせや職員の読み聞かせなども実施している。また、市立図書館からの長期貸し出しが、「朝の読書」を支えている。</li> <li>「朝の読書」で児童が手にする本も、5年前に比べて活字主体の本を手にする児童が増えているように感じる。読書の楽しさを感じながら読書に取り組んでいる。</li> <li>月1回のボランティアの方の読み聞かせを楽しみに、図書館に進んで足を運ぶ児童が増えた。その結果、「朝の読書」で読む本を図書館の本の中から探すなどして、読書の幅が広がった児童もいる。</li> <li>●日々の活動についてネットワークを活用し、学習資料をたくさん学習に提供できている。職員も利用の仕方に慣れ、申し込んでいただく図書資料の量や機会が確実に増えている。</li> <li>●学校での図書館祭りも定着し、委員会の児童を中心に、児童主体で取り組める行事の1つとなっている。委員会の児童が、おすすめの本などを紹介することで、読書の幅を広げている。</li> <li>●司書教諭として本年度は、全校集会で読書指導をする機会をいただくことができた。今まで、手に取ったことがなかった本にも、紹介することで興味を持った児童がいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第二次計画で取り組むべき課題というわけではないですが、本校では、1学年の学級数も多く、司書教諭として学習に入る際に、なかなか担任の望むタイミングでどのクラスにも入るということが難しかった。計画を学校行事ともあわせてしっかり見直して、図書館を活用した授業への取り組みを進めていきたい。</li> <li>●図書館の蔵書は、確実に増えているが、蔵書の中身をよく見てみると、学習資料として不適切であったり、数値や内容が古くて不十分なものだったりする。また、書庫がないために、季節限定の資料であったり、使用頻度が少なかったりするものを保管しておくところがない。学習センターとしての機能を大切にすするためにも施設面の整備が必要だと感じる。</li> <li>●活字資料はもちろんのこと、昨今のデジタル資料に対してのハード面ソフト面どちらの面も不十分であると感じる。デジタル資料への対応も考えていかなければならないように感じる。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●休憩時間や時間が空いたときに読書をしようとする児童が増えた。</li> <li>●図書館ネットワークにより学習資料を収集できることができ、調べ学習等が充実した。</li> <li>●ボランティアによる読み聞かせや図書館からの朝読用図書の借受、司書教諭による本の紹介などにより、いろいろな種類の本を手取る児童が増えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校での読書の時間は増えたが、家庭での読書時間を増やせるように働きかけが必要。</li> <li>●朝読などでなかなか本を選べない児童への働きかけ。</li> <li>●学年に応じたブックリストを作って各学級に渡してみるが、活用が不十分。積極的な働きかけが必要。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝読の取組みははともよい。子どもたちに読書が広まり定着を感じる。</li> <li>●図書館ネットワークにより、情報交換がスピードアップした。環境の整備が進んだ。</li> <li>●郷土学習用の資料は、社会科の学習に活用されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●米子市内の小中学校で足並みをそろえて朝読を継続したい。</li> <li>●学校により、ボランティアとの関わりに差があるが、推進していきたい。</li> <li>●図書館職員の雇用の安定化(常勤化)及び勤務時間の延長</li> <li>●平成23,24年度の全国学校図書館研究大会(米子開催)に向けてがんばっていきたいので、サポートして欲しい。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高学年になればなるほど図書室の利用も減っている。朝読等の取り組みも行っているが、限られた児童が図書室を利用しているのが実態。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高学年の児童に図書室に足を運んでもらう、読書をしてもらう方法は？</li> <li>●先生達にどう情報発信するか？</li> <li>●子ども達の利用しやすい図書館の環境整備(展示の工夫など)</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市立図書館から学期毎に借りている本を中心に、朝読書が定着した。</li> <li>●学校図書館にない本を市立図書館からすぐに届けてもらい、学習に役立てることができるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「朝読書」や「読み聞かせ」など一斉の読書指導は充実してきたと思うが、(読む子と読まない子の二極化など)個々の児童の実態に合わせた読書指導に関しては十分でない面がある。</li> <li>●家庭でも読書習慣をつけること。</li> </ul>

所属	振り返り	今後の課題・目標
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●委員会を通じて、本の紹介をする。委員会の子どもたちがおすすめの本や新しく入った本を紹介して、興味・関心をもってもらうようにしている。</li> <li>●秋の読書週間に、「読書ゆうびん」を行い、全校児童で読書交流している。必ず一枚は郵便を出し、受け取れるように割り当てをしている。</li> <li>●ボランティアの方による「おはなしの会」の実施。毎週金曜日を「おはなしの会」の日として、地域の方に本や紙芝居の読み聞かせをしていただいている。1年生を対象に、他の学年は希望者のみ参加しているが、できれば、高学年にも参加をして欲しいと思う。</li> <li>●2年生以上は、貸し出し冊数に制限をつけていないので、よく読書をする児童とそうでない児童の差が激しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●貸出冊数ばかり気にして、本来の年齢に応じた内容の読書ができていない。各学年に応じた「必読図書カード」を作り、啓発していく予定。(2学期スタート)</li> <li>●高学年の児童の選定内容が気になる。映画等で話題になっている作品であっても、R指定やPG指定の作品を読む事について、保護者の意識を高めたい。</li> <li>●親子読書活動を進めるなどして、保護者に子どもの読書傾向に関心をもってほしい。冬休み中の親子読書(家読(うちどく))のすすめを予定。</li> <li>●「おはなしの会」の読み手の確保 地域のボランティアの方に読み聞かせをしていただいているが、高齢の方が多く、会に参加することが負担になってきている。保護者の方が、もっと積極的に参加してもらえたらうれしいが、なかなか募集しても答えが返ってこないのが現状である。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読書活動にかかわる環境はここ数年で随分整ってきた。</li> <li>●図書館を好きな子ども、本に興味をもつ子どもが増えた。</li> <li>●図書館で、本に親しみ、読書を楽しんでいる子どもが増えた。</li> <li>●調べ学習のノウハウがわかり、子どもたちの活用の仕方が上手くなった。</li> <li>●調べ学習用の資料も充実してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学年に合った内容の本を選べるようになるといい。</li> <li>●量より質を充実させたい。</li> <li>●高学年の読書の時間の確保。</li> <li>●家庭へのよびかけ。</li> </ul>
小学校	<p>●米子市は、朝読書に取り組んだり、地域ボランティアにより朝や休憩時間の読み聞かせを行ったりして、本に親しむ活動を学校全体で推進している学校が多い。また、司書教諭の研修会等により、様々な情報を得て、委員会活動、利用指導、読書指導についても年々充実した内容になり、各学校が工夫を重ねている。さらに、米子市は、図書職員の全校配置、データベース化、メール便による物流ネットワークが早期導入されたので、よりよい読書環境で、様々な積み重ねができていていると思う。その結果、児童の貸し出し冊数が増え、学習のために本を利用する回数も年々増えている。児童は、様々な機会に、いろいろな種類の本を手取るようになってきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体的に貸し出し冊数は増えたが、同じ傾向の本ばかり読む児童がいることや、高学年になると特に男子の貸し出し冊数が減り、中にはほとんど読まない児童がいることも現状として見られる。読書の幅が広がるように、それぞれの学年の「おすすめの本」を紹介したり、担任と連携をとったりして工夫したい。</li> <li>●情報処理を的確に処理する力をつけたり、情報倫理を正しく理解したりするために、情報教育との連携を深め、計画的に進めていく必要がある。</li> <li>●学校ではたくさんの本を読んでも、家庭で読まない児童が多いので、家庭への啓発をしていく必要がある。</li> </ul>

所属	振り返り	今後の課題・目標
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 図書館に図書職員が配置になっているので、</li> <li>①新しい本の受け入れや登録などの事務処理</li> <li>②資料提供のための本の手配など</li> <li>③子どもたちが楽しんで本を読んだり、調べたり出来る読書案内など幅広く仕事を行っていただけるので、子ども達の読書への関心が高まっている。学校図書館には、無くてはならない存在になっている。</li> <li>●地域のボランティアでの読み聞かせを行う団体も増えておられて、地元の方言を使った読み聞かせなど、文化を語り継ぐ機会になっていると感じている。</li> <li>●調べ学習など本が必要なときは、ネットワークを通じて米子市の小学校の本がたくさん集まり、ネットワークがつながっていることがとても有効である。</li> <li>●補正予算や教職員互助会からの寄付など予算が少ない中、本を購入するのに大変役立っている。来年は、改訂になった新教科書になり、調べ学習など内容がかわるものもあるので、図書費は、お願いしたい。</li> <li>●市立図書館ともネットワークがつながっており、本を探していただいたり、アドバイスをいただいたとき、とても助かっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 図書職員の方に大変お世話になっているが、就業時間がもっと長いとより教育活動に有効であると思う。司書教諭は、担任を持つことが多いので、なかなか一緒に他の学級と授業することができない。司書としての時間を増やして欲しい。</li> <li>● 調べ学習の授業の中で図書館が学習センターになるようにしたい。そのために資料整備が欠かせない。米子市の中でも授業時期は、重なるので本が集まりにくいこともある。調べ学習の本は、各図書館でそろえたい。購入できる予算があるといい。</li> <li>● 学校での読書は、行っているが、児童の生きる力としては、家庭での読書に取り組みたい。働きかけをしたい。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●3年前の自校の朝読は週3回の実施であった。昨年度からは「朝読をすると子ども達が落ち着いて次の授業に入れる。」という先生方の声もあり、週5回(毎日)の実施となった。</li> <li>●司書教諭、先生方に「図書館で本を借りて読もう。」と呼びかけてもらったり、図書職員が「新刊紹介」(図書館便り、掲示等)をしたり、図書委員会が「子ども読書の日」・「学校図書館の日」・「図書館まつり」を盛り上げたりした成果が突って、一人あたりの貸出冊数は増加している。</li> <li>●本をよく読む子どもが増える一方、本を読まない子どもはますます読書離れが進むという読書の二極化がはっきりしてきた。</li> <li>●学習支援(調べ学習)は、市立図書館・児童文化センターの団体貸出、学校間相互貸借が定着し、子ども達と先生方の要求に応えられるようになった。</li> <li>●調べ学習の要求が増えるにつれて市立図書館・児童文化センターの団体貸出、学校間相互貸借が増えたが、市のメール便が週4回しかなく、また市立図書館の休館日が重なったりすると相互貸借をお願いした本が届くのが6日ぐらい遅れてしまうことがある。本を借りる側も要求を早めに提出してもらおうと、調べ学習に間に合うように資料準備が出来る。</li> <li>●年間計画に沿った学校図書館の計画的な活用を取り組んでいくために司書教諭と図書職員の連携は欠かせない。</li> <li>●「図書館に図書の先生がいると読書、学習支援でもより良い支援が出来る。」と先生方の声が聞こえてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読書の二極化を無くしていくこと。</li> <li>●本を読まない子への読書の習慣付けが必要である。</li> <li>●読書好きになるには学校だけではなく、家族ぐるみで本のおもしろさ、楽しさを語り合える環境作りが必要だ。例えば、学校が行う年3回のノーメディアデーに家族ぐるみで本を読む「家読(ウチドク)」を取り入れるという方法もある。</li> <li>●本の素晴らしさを知るために子ども達に読書の習慣を身に付けさせたい。</li> <li>●読書の貸出冊数は増加しているが、貸し出しの本の種類に偏りがみられる。もっといろいろなジャンルの本を読んだりして読書の幅を広げ、読書の質の向上をはかるのが今後の課題である。</li> <li>●図書館が狭くて本の置き場がない。もう少しゆったりした読書空間がほしい。</li> </ul>

所属	振り返り	今後の課題・目標
小学校	<p>●自分の好みの本を読むことが好きな児童は間違いなく増えてきていて、貸し出し冊数にも反映されている。主体的に本を選び余暇を過ごしているという点ではよい傾向と言える。落ち着きがあって親しみやすい図書館の環境作り、図書館からの情報発信や委員会の取り組み、職員による読み聞かせなどの働きかけなどによって本と出会い、読書に親しみ、意欲を高めることができていると考える。各学年国語教科書の巻末には、多様なジャンルの本との出会いを意図して「読書のまど ○年生の本だな」がある。図書館にもそこに取り上げてある本をまとめた「読書のまどコーナー」が設けてある。そこから本を借りた児童は個人カードの裏に貼ったカードに判を押してもらい、判がいっぱいになるとシオリがもらえるなどの特典をつけている。担任の先生の働きかけによってその単元になると本も動く。しかし、近年、絵本や低学年向けの本は別として、長く読み継がれてきた本は近年のアニメ系の本に押され気味で、普段は貸し出し状況が思わしくない傾向がある。いわゆる名作と言われる本にも、子ども自らが手を伸ばして読んでもらいたい。</p> <p>また、一人一人の読む力には差があり、読書量も多く読書意欲の非常に高い児童もいれば、なかなかその学年に合った本に手を伸ばすことができにくい児童もいる。たくさん読んでいるからといっても漫画に偏っていたりすることもある。</p> <p>●「朝読」の時間が、最近では学力向上ということで減っているのではないのでしょうか。本校でも、数年前までの全校一斉朝読を見直し、学年ごとに教科の学習に変えています(全部ではありません)。個人的には、全校一斉朝読は、全児童に読書の機会を与え、気持ちを落ち着かせる点で大変効果があると思いますが、限られた時間の中で基礎学力向上の手立てを考えると、このような振替はやむ負えない部分があるかと思っています。</p>	<p>●学級担任と連携し、特に中学年以上の学年には図書館から担任の先生や児童にブックトークなどいろいろな方法で積極的に本を紹介するようにしたい(中学年のころから個人差が拡大してくるので、一人一人の段階にあったきめ細かい声かけや取り組みがこの時期に必要。低学年の絵本から活字にスムーズに移行できたらいい)。教科書で紹介してある本のほかにも素晴らしい本があると思うので、それらも含めて色々なジャンルの本を紹介できるようにし、読書の楽しさや読書の幅を広げいろいろな考えに触れられるようにしていきたい。本校では、「読書の記録」を全学年で行っていないので、全学年に、読んでもらいたい本のリストを書いたものを作成したい。読書記録は記録の継続という点で労力を要し長続きしにくい、記録しておいてよかったというところまで活用できるように工夫したい(今年度どのくらい自分の目標を達成できたか振り返ったり、称賛したり、簡単に記録できる工夫をする。研修会で△△小学校の読書ノートが大変参考になったので、作成中)。</p>
小学校	<p>●学校図書館ネットワーク 本のデータベース化により、各学校の資料が共有でき、授業で使う図書資料をそろえることができ調べ学習に効果がある。</p> <p>●読書活動推進の委員会活動 子どもたちの委員会活動で、学校放送による本の紹介やポスター掲示、読み聞かせ、イベント等を行い、図書館の活性化を図っている。</p> <p>●今までに出会わなかった本との出会い、発見の場の提供。</p>	<p>●読ませたい本と子どもの読みたい本とのギャップ</p> <p>●本を読む子と読まない子のギャップが大きい。</p> <p>●学校だけでなく、家での「家読」の働きかけ。</p>
小学校	<p>●本の活用が広がった。学校間相互貸出し等で準備が短期間でできるようになった。</p> <p>●イベントの開催をいかに読書につなげていくか。</p> <p>●口コミの影響が大きい。</p>	<p>●授業の中で図書資料を活用しているが、どのように活用したか、どの資料が有効だった等の考察が不十分。単なる資料の提供で終わっている。</p> <p>●地域資料の管理整備が必要</p> <p>●本を読む子、読まない子それぞれに応じた支援を。</p> <p>●図書についての情報交換、情報収集が必要。</p>

所属	振り返り	今後の課題・目標
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読み聞かせ等の乳幼児期の取り組みの成果があるようだ。</li> <li>●朝読で担任も一緒に読むことでクラス全体での落ち着きが出てきた。</li> <li>●図書館に行ったことがないという児童もあり、本を“公共物”として扱うマナーのない子もいる。学校図書館の利用を通じて指導ができれば。</li> <li>●クラス単位での学校図書館の利用の取り組みをした結果、児童の利用が増えた。担任の指導で効果が得られたのはでは？</li> <li>●児童よっての差が大きくなっている。担任等の指導が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●必要な資料が多岐にわたるが、資料は値段が高く、読み物までに予算が回らない。魅力的な図書館づくりのための施策。</li> <li>●学校図書職員の勤務時間は週28時間なので活動に制限がある。体制整備などの施策。</li> <li>●図書システムなどのハード的な整備も必要。</li> <li>●児童間での差が大きくなっている。読まない子への対応が必要。</li> <li>●児童が自分で資料が探せない。利用指導なども必要。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝読の定着で常に手元に本がある環境になった。読書嫌いな子や忙しく時間がない子にもその時間だけはと働きかけをしている。</li> <li>●図書館ネットワークにより児童個人のリクエストにも対応できるようになった。</li> <li>●「おすすめ本」の完読や20冊読むともう1冊借りられる「サービス券」を発行することで、児童に目標ができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読書の量もだが、内容のしっかりした本や興味のある本だけでない読書の質を高めていきたい。</li> <li>●図書館がわくわくする場であることが大切。その為のイベントや書架の工夫等、努力していきたい。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●効果が目に見えてははっきりわかるものではないので、根気よく継続していく必要がある。</li> <li>●図書館ネットワークが定着し、学校間の相互貸出も活発に行われるようになり、図書職員及び司書教諭の研修でのスキルアップの機会にも恵まれている。</li> <li>●学校内でも理解を得て、利用の機会を増加しているため、多様にニーズに対応する必要があると感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝読は定着しているが、「毎日続ける」という点では課題がある。読書の好き嫌いの二極化や高学年の不読といった問題へは、「毎日」行うという地道な継続が必要ではないか。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●この5年間で、資料購入予算も増額され、子たちに手わたす新刊が増え図書館の利用も年々増えております。</li> <li>●学校間、市立図書館等の物流が整備され、多様な資料を子どもたちに手渡すことができるようになりました。</li> <li>●指導要領にそった資料や、どの科目にも広がった「調べ学習」への対応、新しいメディアや、新たなデータを必要とする理科、社会科分野を十分に満たすには、残念ながら難しいのが現状です。</li> <li>●多様化する情報を、1年生から6年生の個々の子どものニーズに対応していくだけの時間も、まだまだ不足しています。特に、この5年間は増額された分の資料受け入れに時間がかかるという矛盾も抱えるようになってしまいました。次々に発刊される多様な資料を、どの時間を使って検討していくのか、教諭と共通理解する時間がないまま過ごさねばならなかったように思います。</li> <li>●学校が地域の方々の協力を得て、ボランティアの読み手を受け入れたり掲示物の作製協力を受け入れたりして、環境の充実をはかる努力をしていますが、ボランティアとの対応に時間的な調整を求められても勤務時間内にはできません。また、ボランティアさんの力量も様々ですが、非常勤職員のわたしたちには、その指導の権限もノウハウがないところが、深まりを見せない点でもあるかと思えます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●予算について 小学校は、1年生から6年生という成長著しい子どもたちに対応しています。低学年の読める本を、6年生が楽しむことは無理があり、予算を単純に学年相当に分けていけば、相当学年の楽しむ資料を購入する金額はわずかなものになってしまいます。しかし、1校あたりの小学校の貸出冊数は、中学校の数倍にもなりますが、予算については中学校が倍以上となっています。これは、一人あたりの予算単価が中学校の方が多く上に生徒数が多いということがあると思います。これについてのお願いですが、一人あたりの単価を同額または、クラス数あたりの予算を小・中同額にできないでしょうか。貸し出し冊数の多い小学校への、予算配分をぜひともお考えいただきたいと思えます。</li> <li>●すべての米子市の子どもたちが、生涯に渡って、図書館や資料を活用していく基礎能力を身に付けられるため、資料活用のオリエンテーションを共有化し、指導内容を構築していけたらと思います。</li> <li>●新しい学校図書館の流れや、かかわる学習内容、メディア等の学習理解の不足を感じています。県大会等、研さんの場への公的扱いの参加を希望します。</li> </ul>

所属	振り返り	今後の課題・目標
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読書活動にかかわる環境はここ数年で随分整ってきた。</li> <li>●図書館を好きな子ども、本に興味をもつ子どもが増えてきた。</li> <li>●図書館で、本に親しみ、読書を楽しんでいる子どもが増えた。</li> <li>●調べ学習のノウハウがわかり、子どもたちの活用の仕方が上手くなった。</li> <li>●調べ学習用の資料も充実してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学年に合った内容の本を選べるようになるといい。</li> <li>●量より質を充実させたい。</li> <li>●高学年の読書の時間の確保。</li> <li>●家庭へのよびかけ。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●図書費が増額され資料が充実してきている。</li> <li>●定期的に図書館に足を運ぶ子が増えた。</li> <li>●調べ学習などでの利用の仕方が定着してきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全体的な読書量は増加しているが、一方で読む子と読まない子の差が出てきている。</li> <li>●利用が多く傷みの激しい本や何年も前で利用されなくなった古い資料等が廃棄基準に達していないために廃棄できない。</li> <li>●量だけでなく、質の高い読書ができるように指導したい。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●一週間に一度、図書の時間に読み聞かせがあり、集中して話を聞く習慣が身に付いた。</li> <li>●学校図書館ネットワークなどにより、授業の進度にあわせ、資料(本)を子どもたちに提供することができた。</li> <li>●「読書のまど」に載っている本を学年別に置いたことで、年齢に適した本を読むようになった。</li> <li>●本を読む習慣がない子どもが、朝読を通し本に親しみ、休憩時間の活動の1つに読書を位置付けることに繋がった。</li> <li>●市立図書館が選書した本を学級文庫として借りることができ、それを学期ごとに、他のクラスと入れ替えることで、こども達も様々な本に親しむことができた。</li> <li>●子どもたちが落ち着かない時間帯に読み聞かせを行うことで、クラスの雰囲気も穏やかになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人気のない本を子どもたちが手に取るための工夫。</li> <li>●本を借りない子どもに対する有効な働きかけ。</li> <li>●貸し出し冊数だけでなく、読んでいる本の内容を重視する。</li> <li>●学校の規模に応じた図書館設備を整えることが望ましい。</li> <li>●図書館の本を貸し借りするだけでなく、落ち着いた雰囲気の中で読書ができるような環境作りをする。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ブックスタートによる変化 子どもの6ヶ月健診から始まるブックスタートの取り組みのお陰で、母親の読書へ対する関心が高まったのではないかと思う。この取り組みの成果なのか、小学校一年生でも読み聞かせを聞く姿勢がすでにできている。</li> <li>●朝読書の時間の読み聞かせ 本校では1ヶ月に1回、朝読書の時間にボランティアの皆さんが読み聞かせに来てくださっている。自ら本を手にとることの苦手な子、本を手にしてもなかなか読めない子などが、読み聞かせがあることによって落ち着き、本の世界にふれることができています。</li> <li>●学習を通しての本との関わり 学習で使った本や、その学習内容に関係した事柄が記載された資料を、子どもが自分から手に取ることが多くなったように思う。特に、資料を集めじつりと学習したときや、先生方が紹介された本には興味を持ち、知ろうとする姿勢が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読書量と読書の質 子どもは本を読んだ冊数を気にする傾向にある。「沢山読めばすごい！」という意識が強い。もちろん、本を多く読もうとする意欲は尊重すべきだが、冊数だけでなく読書の質を高めていくことが必要であると痛感している。子どもがより幅広く読書していくように、図書館活動を行う必要がある。</li> <li>●蔵書冊数と予算 年月が経つと、本の内容は古くなり本そのものも汚損していく。特に小学校の本の劣化は非常に早い。蔵書冊数は満たされているものの、実際に使える図書として存在している物と、そうでない物がある。新しい本だけでなく、古くなった本の入れ替えや学習で必要とされる本もそろえるため、予算と蔵書冊数は必ずしもイコールではない。冊数さえあれば良いという考え方はせず、内容の充実した図書館を目指さなければならないと感じている。</li> </ul>
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝読をはじめとして、ボランティアのおはなし会、教師、委員会活動の児童などの本の読み聞かせを行い、読書の習慣づけができ、児童の読書量も年々増加している。</li> <li>●図書室も各学校で独自に充実を行い、調べ学習等でも図書館ネットワークで必要な資料が沢山入手できるようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多種多様な情報が子どもを取り巻く現状で子どもにとって必要な本の見極めが難しい。</li> <li>●本を読む子と読まない子の中で読まない子への働きかけを行い、また沢山読む子には内容の「幅」を広げる必要がある。</li> </ul>

所属	振り返り	今後の課題・目標
小学校	<p>●ブックスタート…素晴らしい取り組みだと思います。1期生は現在小学校1年生と聞いています。週1時間のわが校の1年生の図書館利用の様子をみていると、教室での課題がすんだ人から図書館で読書という場合、自分で本を選んで一人で静かに読む子が1割、「聞きたい人は、どうぞ」と声をかけると半数位の子がやってきて、席を立たずに静かに最後まで絵本の読み聞かせを聞いてくれます。家庭で本をよく読んでもらっている様子がうかがえて、「読書環境は家庭から」というブックスタート運動の成果を目の当たりにするおもしろいです。</p> <p>●図書流通システム…すごいシステムです。オンライン化で米子市中の図書館がひとつになりました。市立図書館や児童文化センターの司書の方々、図書職員のみなさんには本当にお世話になっています。ただ、流通面で水曜のメール便がなくなったのは不便です。</p> <p>●郷土資料…大山(5年)や弓ヶ浜地区(3年)の調べ学習に市立図書館の「ふるさと米子探検隊」が大変役にたちます。子ども向け郷土資料がすくないので、ぜひ続けてほしい企画です。</p> <p>●補正予算と教職員互助会からの寄付…予算の少ない小規模校なので大変ありがたかったです。互助会からは今年度も寄付をいただき、お礼申し上げます。</p>	<p>●数字の目標より内容 蔵書数にしろ貸出数にしろ、内容が大切だと思います。蔵書に関しては、自然科学・地理・社会科学の分野はこまめな補充や買い替えが必要です。読み物の本も、新しい本や話題の本・流行りの本はひっぱりだこです。今後とも寄付など予算面でのご支援をいただけたらうれしいです。</p> <p>●図書職員の勤務時間について…子どもたちが学校にいる時間は対応できるように、現行28時間を40時間勤務にして欲しいです。「本と利用者の橋渡しをする」ことが司書の仕事で、図書館で調べ学習の授業が予定されているときは事前に授業をされる先生との打ち合わせが必須です。にもかかわらず、勤務時間がずれているためにそれもままなりません。教室を移動する時間を除けば、1校時は実質30分。限られた時間内に子どもたちに成果を上げて帰ってもらうには、学年に応じた資料の使い方(事典や図鑑の使い方、目次と索引など)を折にふれて説明することや、リスト作成や場合によっては資料に付箋をつけるなどの下準備が必要です。蔵書の受け入れや修理、図書費予算の管理補助など図書職員本来の仕事もあり、時間が足りません。夏休みも勤務できるようにしてもらえれば、蔵書点検をふくむ図書館の整備に不可欠な仕事が余裕をもってできるのと思います。さらに学校図書館司書という専門職扱いであれば、一層ありがたいです。</p> <p>●読み聞かせの機会を増やすこと 朝読の時間にボランティアさんをお願いしたりできればと思っています。親子読書活動もぜひ続けていきたいです。</p>
小学校	<p>●本の冊数が増え、内容も充実してきた。書架やブックラック等の環境整備も進んでいる。</p> <p>●年間利用計画にしたがって、図書館学習、調べ学習、ブックトーク等を実施することで、利用の促進ができたが、利用したい学年、学級が重複することもある。</p> <p>●利用の促進により、本を大切にすることが育っていった。</p> <p>●高学年になるにつれ、読書量の差が広がっている。</p> <p>●読みやすい本や面白い本には目が向くが、じっくりと読むことができ難い子どもが増えている。</p>	<p>●児童に読んでもらいたい本を随時、様々な方法で紹介する。</p> <p>●日々の地道な取組みを継続していく。</p> <p>●職員の情報収集により多様なニーズに対応する。</p>
小学校	<p>●図書館ネットワークで児童・生徒のリクエストの多くに応えることができるようになった。</p> <p>●学校での貸出し冊数は増えているので、図書館に来る回数は増えているが、朝読書以外は本を読んでいなかったり、家へは持ち帰らなかったりする児童もいる。</p> <p>●調べ学習で図書館の本を利用するので、いろいろな分類の本に興味を持ち、借りるようになっていく。</p>	<p>●図書館ネットワークで本を借りる事ができるが、学習後その本にふれることができなかったり、同じ時期に他校の学習と重なったりすることも多いため、自校で資料をそろえていく必要がある。</p> <p>●学年が上がっても、絵本や低・中学年向けの本を借りる傾向がある。読みたい本を自由に選ばせたいが、生涯を通じて読書をするためにも、もう少し学年に応じた本に向かうことができるような手だてが必要。</p>
なかよし学級	<p>●夏休み中は毎日13時から1時間程度図書室での読書を行った。</p> <p>●市立図書館から借りたりして、絵本を読み聞かせている。子どもの希望を取り入れて選ぶようにしているので、よく聞いている。</p>	<p>●なかよしで過ごす時間は、長期休暇以外は1日数時間程度なので、極力読書の時間を設けたいと思う。</p>

所属	振り返り	今後の課題・目標
なかよし学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>●帰宅前10分間は、読書の時間に当てている。おやつ時間に紙芝居などを読むこともある。</li> <li>●読書はする子としない子に分かれる。</li> <li>●夏休みは図書室を利用して1時間読書の時間をとった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読書をする子としない子がいて、対応がわからない。</li> <li>●本が古く、買い替えができない。</li> </ul>
なかよし学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本のコーナーを設置。</li> <li>●夏休みには時間的余裕があるので、1時間程度図書室を利用している。冷房があるので、ゆっくりと本と向かい合える。</li> <li>●本を読もうといってもなかなか子どもが動かない。読み聞かせをすると嫌がらないので、短時間(おやつ時間等)行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本を繕ったりはしているが、古い本が多く入れ替えたい。</li> <li>●小学校低学年では成長の度合いがマチマチなので、選書が難しい。</li> <li>●冬場は時間が短く読み聞かせ等が困難</li> <li>●自宅での読書の状況等がわからない</li> </ul>
なかよし学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>●おやつ時間の後に絵本の読み聞かせを行っている。本の好きな子が多く静かに聴いている。そうでない子も徐々に慣れてくる。家庭での本との関わり方が大きく影響しているように感じる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いい本を沢山おいてあげたい。</li> </ul>
なかよし学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎日おやつ時間の後15～20分程度は、本を読む時間に行っている。また月に1回の誕生会では、紙芝居を見せたり、なぞなぞの本を使って楽しんでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●備え付けの本が少ないので、学校の図書室との連携を図れればと思う。</li> </ul>
なかよし学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>●なかよしでは図書費が予算化されていないので、指導員が個人的に寄贈している。冊数が少ないので、図書室や視聴覚ライブラリー等を利用している。</li> <li>●読み聞かせのボランティアを活用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●毎年の図書費予算化</li> </ul>
なかよし学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本法や県・市のビジョンについては認識がなかった。県民上げてというような徹底がなかったのでは？</li> <li>●公民館や学校で読み聞かせのグループが活動、支援をしております環境になってきている。</li> <li>●お別れの挨拶前に読み聞かせを実施しているが、子どもたちが落ち着き、事故や怪我がないように帰宅できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●なかよしの中ではおもちゃ、工作等をして時間を過ごすことが大半だが、「宿題を済ませてから遊ぶ」「他の人が勉強をしている間は静かにする」という約束ごとがある。子どもは遊びだすとその約束を守れないので、読書をしてくれたらと思う。</li> <li>しかし、なかよし学級の図書は数が少ないので飽きてしまい、ほとんど手に取られなくなっている。</li> <li>学校の図書室の利用の拡大や他のなかよし学級との図書資料のやりとりがあるとよいのでは？</li> </ul>
なかよし学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長期休暇の際は、昼食後を読書の時間に当てている。自分で読む、友達と読む、指導員が読み聞かせをするなど様々に楽しんでいる。</li> <li>●教室の本に飽きた頃には、図書室に本を借りに行き、本の入れ替えを行っている。</li> <li>●通常はあまり時間が取れないが、帰宅前に読み聞かせを行い、気持ちを落ち着かせるようにしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長期休暇と違い、通常は時間が取れないため、読書の時間をとるのが難しい。</li> <li>●日々の積み重ねで子どもが変わってきたと感じる。</li> </ul>
なかよし学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>●図書館から毎月10冊、紙芝居等を借りて読み聞かせを行っている。創作童話、偉人の本、昔話、原爆の話など。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●初めは本を読もうという嫌がる子もいるが、続けていくうちに興味を示す。偉人の本、昔話、原爆の話なども初めは嫌がる子もいるが、感動し関心も持ってくれる。</li> </ul>
なかよし学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>●いろいろな本に触れられるように図書館から借りて工夫をしている。</li> <li>●夏休みは昼食後に紙芝居の読み聞かせを行った。</li> <li>●話を読む、聞くことは人前での表現や人の話を聞くことにつながると思うので、今後も継続していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本の数が少ない。</li> </ul>
なかよし学級	<ul style="list-style-type: none"> <li>●活動の時間が非常に短い、図書室や児童文化センターから借りた本を利用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●家庭で不要になった本や児童文化センターの貸出等を利用し、なるべく多くの本を提供するようにしている。</li> <li>●長期休暇では、より読書の時間を取り入れていきたい。</li> </ul>

所属	振り返り	今後の課題・目標
なかよし 学級	●いろいろと工夫をして図書を用意しているが、文字を読むというよりはページをめくっているよう雰囲気。もっと小さいころからの取り組みが大事では？	●読書の習慣化 ●子どもの集中力向上をどう図るか。
なかよし 学級	●「本法」の存在を知らなかった。 ●読み聞かせの時間を楽しみにしていて騒いでいる子どもたちも静かになり聞き入ってくれる貴重な時間になっている。	●市立図書館を利用しているが、図書が多いと不便である。 ●移動図書館車を利用したいが、子どもたちの年齢にあった本がなかなかない。
児童館	●本が古く、限られた予算の中で本を購入するので、毎年数冊しか本を購入できない。 ●毎月第2土曜日午後2時から絵本の読み聞かせ教室を実施。乳幼児を主な対象とし、保護者が毎月担当者になって1時間読み聞かせ、手遊び、パネルシアターなどを実施。 △△保育園の先生の協力も得る。小学生も自由参加。 新しい本がないので、市立図書館の移動図書館車を利用している。	●様々な本を購入し、「読みたい本」がある環境が欲しい。
児童館	●月1回の読み聞かせ事業では、お母さんが読む本を静かに聴くことができている。 ●高学年は本を借りることもあるが、児童館の図書室では走り回ったり騒いだりして声が気になるので読書をするのに環境がいいとはいえない。	●古い本ばかりなので、新しい本が欲しい。 ●読み聞かせの事業の間だけは静かに本を読もうとできればいいと思う。
児童館	●数年前から子どもたちが本を借りなくなっている。借りるとしても、「ミック！」のような本を借りる。 大人もなかなか借りて帰ることがない。 ●読み聞かせは毎月実施している(幼児、小学生向け)	●小さいうちから本に親しんでもらうために読み聞かせ等の活動を充実していきたい。 ●家庭の中に本があるかどうかでずいぶん状況が違うのではないかと。テレビゲームにはたくさんのお金をかけるのに。本の魅力を理解してもらおうことを考えていく。
児童館	●近年子どもの活字離れからか、本の貸出し数が減った。お勧め図書や新刊を館の玄関ホール等目立つ場所においているが興味を持ってもらえない。 ●毎月「親子読み聞かせ教室」で幼児期から絵本に興味を持ってもらえるよう薦めている。	●保護者自身に本を読む習慣がないのでは？ ●保護者や大人に本の大切さを伝えて行かなければ活字離れがどんどん進んでいく。 ●読み聞かせ教室に親子で参加してもらい本の面白さを体験してもらおう(実際には保護者の参加は難しい)
中学校	●本校での読書活動は充実していると感じている。生徒は読書好きな子が多く、図書館の利用も活発に行なわれている。 ●朝読書も全校で取り組み、毎朝の10分を集中することによって、落ち着いた気持ちで授業をスタートすることができる。月に1度は朝読書の時間を利用して、地域ボランティアの方たちによる“絵本の読み聞かせ”を行なっていて、生徒達も楽しみにしている。	●校内では生徒は図書館へよく足を運ぶが、教員の利用が少ないと思われる。図書利用を充実させるため、もっと授業や授業研究等で利用して欲しいと考える。よって、今後は教科の単元と関連した本の展示や紹介など授業と図書館をつなぐ取り組みを推進していきたいと思う。
中学校	●朝読の取り組みはとてもよい。	●読者の貸出冊数が増加しても特定の児童が何冊も借りる状態ではなくて、沢山の児童が1冊でも2冊でも借りるという状態にしたい。 ケータイ小説を読んでいる生徒もいるが、オーソドックスな本を読んでもらいたい。
中学校	●朝読が定着し、落ち着いてスタートできる。 ●図書館ネットワークの周知が十分ではない。	●選書の際に市立図書館の司書の専門的なレファレンスが受けられる体制整備。

所属	振り返り	今後の課題・目標
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒の顔と本の好みを思い浮かべて、その子に合う本を選ぶことや、そのことを生徒がうれしいと感じてくれること、また、感想を言い合って、本の世界を共有すること。読書は個人的なものだと思うが、学校図書館には、このような心のふれあいがとても必要であると感じる。</li> <li>●この日々の積み重ねが、読書を楽しむ子供の増加につながるのではないと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●娯楽としての読書だけではなく、感動体験としての読書になるような手助けをしていきたい。</li> <li>●図書館は、文化の拠点であるということを基軸にした選書をめざしたい。</li> <li>●普段、手に取らない本をいかに魅力的に紹介できるかが課題である。</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本校での朝読書の時間は静かに行われているが、生徒によっては読書に集中しきれない者もあり、どのように読書の楽しさを知らせるかを考えていかなければならない。</li> <li>●学校図書館は生徒の希望する図書も入れてあり、毎日通う生徒も多い。全く行かない生徒との二極化が見られる。</li> <li>●各教科の授業の中で、学習資料として図書を使用する際、タイムリーで詳細な情報を得ようとすると、インターネットとの併用が望ましい場合もある。教科担任、司書教諭、図書職員の3人体制で授業を進められるのが理想的だが、PC室での指導や事前の打ち合わせなどとてもむずかしい。</li> <li>●帰宅後、ゲーム、テレビで2～3時間以上費やす生徒もいる。家庭との連携や協力を得て、本に親しむことを訴えていかなければならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●蔵書数が増え、書架が加わり、図書館がせまくなってきた。本校では空き教室もなく、広げることができない状況ではあるが、明るくて安らぎのある読書空間を作っていく。</li> <li>●朝読書、学校文庫(分館)を継続する。</li> <li>●各教科の指導内容と図書館を結びつけ、積極的に活用してもらおう体制づくりをする。(図書館教育部会等)</li> <li>●PTA活動との連携(家庭での読書、親子読書などの呼びかけ)</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝読の定着</li> <li>●学級文庫の設置により、読書に興味のあまりない生徒にも手に取りやすくなった。</li> <li>●図書館ネットワークの改良等により環境が改善された。</li> <li>●勤務時間が1時間減となり、図書室の活動時間が減った。</li> <li>●市立図書館や司書教諭との支援、研修が効果的。</li> <li>●「こども読書の日」や「読書週間」等を通じて、生徒へ啓発している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「学校図書館図書基準」達成のためにも、また多様なニーズに対応するためにも、予算を増額してほしい。</li> <li>●いつでも読書や調べ学習が可能のように、生徒が在学中にはずっと図書室を開放できるような人的な体制整備の工夫が必要。</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●昨年度までの5年間、小学校で勤務していましたが、担任の先生方が授業に図書館を活用して下さることが多かったです。低学年には毎週読み聞かせをし、中学年、高学年は読書の時間や調べ学習に使って下さいました。子どもたちにとって図書館が身近な存在となり本をよく手にとっていたと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●最近の売れる本は商業目的に作られているのか、ゲーム感覚の内容であったり、軽いノリの内容であったりと、質が良くないものが多いと感じます。学校図書館はこちらが読んで欲しいと思う本を積極的に提供していく場としたいです。</li> <li>●当校に勤務してから、小学校より図書館を活用して下さる先生が少ないと感じましたが、クラス数が多いのでしても全ての先生が使われると図書職員一人ではとても対応しきれない、とも思います。ですから先生方に積極的に「図書館を使ってください」と呼びかけることが出来ない、という現状です。</li> </ul>

所属	振り返り	今後の課題・目標
中学校	<p>●図書館にいつも職員がいるということは、読書環境としてとても大切なことだと思います。司書をしていて難しくそしてとても大切なことだと思ったことは、やはり生徒と本との仲立ちの難しさです。「おすすめの本は何ですか。」ときいてくる生徒は、どんな本をよんだらいいのかわからなくて、司書が読んでおもしろいと思った本を紹介して欲しい場合と、その生徒にとっておもしろいと思える本を見つけて欲しい場合の二つがあるようです。</p> <p>●いろいろな生徒の希望に応えられるよう、司書は自分の読書のジャンルを広げておく必要があります。そして生徒ひとりひとりの好みを把握したうえで、両方の種類をランスよくすすめられるようになれたらと思います。好みの本をたくさん読むのもいいですが、それだけでなく若いうちはもっと幅広い読書をして世界を広げてもらいたいと思います。</p> <p>●もう一つは選書です。幅広い読書をすすめるには、バランスのよい蔵書が必要です。偏らないように気をつけているつもりですが、なかなか難しいです。</p> <p>●気軽に声を掛けてもらえる人間関係、蔵書の質、そして本が身近なものに感じられる環境作りが大切だと思いました。</p>	<p>●学校の3年間で身につけた読書習慣を高校に進学された後も続けてもらうために、どんな形かはよくわかりませんが、高等学校との連携も必要ではないでしょうか。</p> <p>図書館＝読書というイメージだけではなく、調べ学習以外の調べものでも図書館の資料を活用して調べる習慣(司書に聞くだけでなく、自分で見つける楽しさも感じて欲しいです。)、そして公共の施設等でのマナーについても学んで欲しいと思います。</p>
中学校	<p>●読書を楽しむ家庭の中に居る生徒は、中学生という思春期の中に居ても本人も当たり前のように読書を楽しんでいる。</p> <p>●中学生は、3年生になると受験の事もあってか読書量も低下する。家庭の中でも『読書より勉強』という意識が強い。</p> <p>●あまり読書をしない生徒でも、『スポーツ年鑑』『ギネスブック』などを見てくろぐ生徒も多いが、きっかけは何であれ、図書館に足を運んでみれば生徒本人の図書館に対するイメージが変わり、本を活用することに苦手意識がなくなるようです。</p> <p>●特に、中学1年生は小学生のころの図書館活用のイメージのまま来館します。このまま『楽しい図書館』のイメージを引き継げるようにしてきました。</p>	<p>●『朝の読書』用の本は、これからも読書好きから読書の苦手な生徒までみんなに対応できる様、様々なジャンルの本を取り入れたい。</p> <p>●小中学生にも理解しやすい郷土の本の収集。</p> <p>●調べ学習等において、限られた授業時間数の中で効率良くインターネット検索並みに図書資料を利用してもらえる工夫。</p> <p>●家庭での『読書』の輪を広げる。</p>
中学校	<p>●委員会活動を中心に、「図書館まつり」等の多様なイベントの開催や、3年生による「エプロンシアター」、2年生による「紙芝居」等により啓発を行っている。</p> <p>●司書教諭が年間計画やブックリストを作成し、授業で活用。利用後も一覧にまとめ、教員に配布を行っている。</p>	<p>●生徒自身が、絵本の読み聞かせからブックトークまでできるようになればと思い、授業の中では難しいので、機会を捉えて取り組みたい。</p> <p>●家読の為にも良い本をどんどん紹介していきたい。</p>
中学校	<p>●図書予算増額のため、蔵書が充実しつつある。新刊入荷を心待ちにしている生徒が多数いるため、図書館来館者数も多い。</p> <p>●米子市メール便システムを利用した相互貸借も活発に利用している。</p> <p>●図書システムも更新し、図書館環境づくりも一層充実した。</p> <p>●朝読書・地域の方々の読み聞かせ活動も定着しており、生徒たちの継続した読書のきっかけとなっている。</p>	<p>●年齢にあわせた選書・蔵書の充実。</p> <p>●生徒の読書意欲の維持・読書の“質”の向上のための取り組み。</p> <p>●調べ学習等、授業での図書館利用の促進。</p>

所属	振り返り	今後の課題・目標
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本校は文化委員会を月1回開催。教師、生徒、図書職員らが一体となって、生徒たちの読書への意欲を高めようと活動している。活動の内容はポスター作り、オススメ本の紹介、読書の木作り、“朝読”の実態アンケート、図書館ニュースの発行、学級文庫の貸し出しなど。また文化委員が描いた各作品を廊下や教室に展示し、放送でオススメ本の紹介をしたりして、生徒の本への関心を高めようと努力している。</li> <li>●購入する本は年間約1000冊で、ほとんどが内外の小説である。この中には生徒のリクエスト本も含まれ、その多くはライトノベルである。本校の図書館はマンガ禁止(学習マンガは可)なので、せめてもとの思いで生徒の好む本を購入している。本当に読んでほしいのは、出版社推薦のいわゆる良書といわれる本と、それらにつながるヤングアダルト世代の本なのだが、どうも両立するのは難しいようだ。</li> <li>●中学時代はなるべく広い分野の本を読んで、読書への関心を高めてほしいもの。それにはいろいろな本をたくさん読むことが大切だ。このあたりを生徒たちに理解してもらい、将来へと続く、自身の読書活動の基盤を築いてもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●設備として、年々増える蔵書に対応しての書架の増設を希望。来春竣工予定の特別棟の中の多目的教室が機能し出せば、図書館のスペースにも余裕ができ、広い読書空間が確保できると思う。</li> <li>●今後の図書館教育に備えて、調べ学習用の資料的な本を揃えていきたいが、情報の鮮度や情報量は電子媒体に比べ紙媒体は常に後手にまわり、価格の割に資料的な価値が薄くなる。限られた予算の中でどう対処すればいいのか、悩むところである。</li> <li>●本を読むことが即学習効果につながるわけではないが、本に親しむことで人間的な豊かさや余裕が生まれ、成長の糧となるであろうことを知ってほしい。</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝読の定着、貸出冊数の増加、学習への活用、教員への啓発と徐々に浸透してきた。</li> <li>●中学生は忙しいため、どのように図書室へ足を運んでもらうかに腐心した。</li> <li>●蔵書の入れ替えが十分にはできないので、他校からの相互貸借が非常に有効。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中学生は時間的に余裕がなく、昼休み程度しか利用する機会がないため、貸出冊数もなかなか増加しない。</li> <li>●委員会等の活動の中や個人の利用頻度にも極端な差があり、広く啓発することが難しい。</li> <li>●学校内での図書室の位置づけや教員との連携が必要。</li> </ul>
市米養	<ul style="list-style-type: none"> <li>●朝読の定着。</li> <li>●各クラスにブックラックを設置したことで、本を手にする機械が増えた。</li> <li>●授業での図書館利用がその後の利用増につながった。</li> <li>●児童文化センターの貸出により学校以外の本にも触れることができるようになった。</li> <li>●委員会活動で、図書館まつりや便りの作成をした。</li> <li>●児童、生徒、保護者向けの図書館便りを毎月発行。</li> <li>●リクエストには極力対応するように心がけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●読書をする子としない子の二極化</li> <li>●図書室を利用する教科が特定の教科になっている。</li> <li>●読書の楽しさを伝えるきっかけを与えたい。</li> <li>●保護者にもアプローチをしていきたい。</li> <li>●読み聞かせボランティアが外部から入ることで子どもたちの人とのつながりを広げたい。</li> </ul>
人権情報センター	<ul style="list-style-type: none"> <li>●子どもを対象にした貸し出しはほとんど行っていないが、教員やPTA、地域や企業等の場で人権教育を行っている人がよく利用している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今後は子どもも含む市民に積極的に行っていききたい。</li> <li>●職員の資質向上に努めたい。</li> </ul>